



農家と農業委員会をつなぐ広報誌

Iwaino Daichi

いわいの大地

撮影 石川 誠司 農業委員

地域農業を支える担い手



室根町矢越の小岩大輔さんは、地元の高校を卒業後、両親が行っている水稲、和牛繁殖経営を引き継ぎ就農しました。

就農後は、管内の基幹作物であるトマト栽培の導入や作付けが難しくなった農地を積極的に引き受け水稲栽培の拡大、ドローンの資格取得と導入により水稲の適期防除と管理作業の省力化に努めています。

家族経営協定の締結により農作業を分担し、現在は、水稲部門では主食用米2畝、飼料用米

【室根地域】
小岩 大輔さん(46)

6畝、春・秋作業受託21畝、米の乾燥調整、ドローンによる「いもち病・カメムシ」共同防除100畝、水田除草散布16畝を実施しております。トマト部門では雨よけ栽培54ア、和牛繁殖部門では繁殖牛29頭、育成牛5頭、子牛15頭、牧草地10ア、家畜市場開設日には、和牛ヘルパーとして牛の運搬など、部門毎に家族が責任と意欲を持って農業経営に取り組んでいます。

集落では、中山間地域、多面的機能組織の代表や上折壁地区基盤整備事業の副推進委員長など地域農業のリーダーとして活躍しています。

肥料・飼料・燃料等農業資材の高騰、農畜産物価格の低迷、水田活用直接支払交付金の見直しなど厳しい情勢が続いていますが、経営の効率化と低コスト生産に努め、地域の農業、農地を守っていくためがんばってきたいと話してくれました。

農業委員 藤原 美喜男

新年のごあいさつ



一関市農業委員会
会長
石川 誠司

明けましておめでとうございます。皆様方には健やかな新年をお迎えのことと存じます。

新型コロナウイルス感染症がまだ収束されず、人間の生命が奪われ、心までが脅かされております。コロナウイルス感染拡大により農業分野、商工業とあらゆる経済全般に被害が及んでおります。

また、ロシアによるウクライナの侵攻により世界的に原油や大豆、トウモロコシなどの穀物の輸入が阻害され価格の高騰により日本経済にも大きな打撃を与えております。

このような中で、東京都では物価高で困窮する世帯への支援策として米を現物支給する方針を決めたほか、高騰する小麦粉の代替品として米粉へ注目が集まるなど、米の国内消費拡大が期待できるようなニュースもあります。

暗い情勢が続いておりますが、今年こそ希望が持てる明るい一年になることを祈念し、農業委員会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさついたします。



地域農業の課題解決へ意見交換



懇談の前に農業委員会から市長に対し「令和4年度農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」を提出しました。

意見交換

■農業委員 千葉 綾雄委員 [室根]

耕作者がいなくなった農地を中心にセイタカアワダチソウなどの外来植物が繁殖している。

繁殖力が強いだけでなく、景観を阻害する問題や、中には害虫や野生動物の餌になるものもあり副次的な問題も発生している。

イノシシなどの有害鳥獣は一関市独自の駆除だけでは難しいと思うので、隣接市町村との共同捕獲体制について提案する。



■市長

今までの市の対応は、特定外来生物の種類や駆除の方法についての周知にとどまっていた。

民地の部分についてはそれぞれの土地の所有者の方に駆除していただいているところだが、それを市でどこまで支援できるか検討している。

全国の取組状況などから情報収集している段階のため、もう少しお待ちいただきたい。

■農業委員 佐藤 洋子委員 [一関]

市では人口減少や施設の老朽化、財政状況などを踏まえ、公共施設の見直しが行われると聞いている。私の地域にある厳美市民センター・山谷分館もその対象となっており、地元へ無償譲渡される方針とのことだ。

この施設は地元住民だけではなく、市内各地域の方々にも自家用みそや豆腐の加工施設等として利用されており、地元住民が予約できなくなるほどの利用状況である。

今後この分館施設を市の施設として継続利用できるよう検討をお願いしたい。



■市長

市で現在保有している全ての施設の更新にかかる費用とそれに充てられる予算の試算を行ったところ、この先30年間に3割の施設を減らすことが必要という試算結果になった。

そこで市の公共施設等総合管理計画に基づき個別の施設ごとに廃止、譲渡、規模縮小などの見直し区分を定め色々な場面で議論を重ねて方針を決めた。

しかし、実際に施設をどうするかについては、それぞれの施設の利用者などと協議して決めていくものなので、山谷分館についても個別の話し合いで具体的に詰めていくことになる。

■農業委員 佐々木 栄一委員 [藤沢]

市では狩猟免許の取得経費の補助はしているが、鉄砲の所持許可を取ることが大変である。取得経費の補助だけでは猟友会員は増えていかない。鳥獣被害対策について各地域の農政推進委員からの報告状況を教えてほしい。

藤沢黄海地区の北上川に注ぐ黄海川の合流地点で基盤整備を進めているが、水害の常襲地帯であり大雨が降ると水田や道路まで冠水してしまう。地域住民の安全のためにも、河川の改修と道路のかさ上げをお願いしたい。



石川誠司農業委員会会長はいさつの後、「農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」を市長へ提出しました。この「意見書」の提出は農業委員会の重要な活動のひとつとして規定されているものです。

農業委員、農地利用最適化推進委員が日々の活動の中で、一関市の農政や農業・農村が抱えている問題点や解決策について洗い出し、2度の農政専門委員会での協議を経て農業委員会総会において「意見書」という形に取りまとめられたものです。

「意見書」の提出を受け市長は、後日書面で詳しく回答することを約束しました。さらにはいさつの中で、一関市の最重要課題は人口減対策であり重要になるのは「仕事」である。当然ながら農業という仕事もその活路を見出す一つのピースとして考えていると話されました。

緊張する世界情勢の中、食料安保の強化が言われています。農業委員会では、農業・農村の役割を再認識し課題解決に向けて取り組みたいと思います。

農業委員 畠山 信吾



■市長

黄海堤防の整備と水門の設置と二つの対策が考えられる。引き続き国土交通省に要望していきたい。

■農林部長

各集落の農政推進委員から被害の面積と程度を報告していただいている。目撃情報はクマとイノシシが中心で、それ以外の鳥や小さい獣についての情報はなかなか届かないのが実態だが、農政推進委員を通じて被害状況を把握している。

■農地林務課長

令和3年度の被害額の実績は全体で約1,600万円。被害が大きい作物は、水稲が850万円、果樹が370万円、野菜が350万円、豆類が14万円ほど。

鳥獣別の被害額では、イノシシが460万円、シカが300万円、カラスが240万円、カモシカが220万円、ハクビシンが160万円となっている。令和2年まではシカの被害が750万円で1番であったが、現在はイノシシの被害が増加している。

イノシシとシカの捕獲頭数も増加しているほか電気柵の設置も拡大していることから、農作物被害が減ってきていると思う。

■農業委員 畠山 信吾委員「藤沢」

基盤整備についてだが、事業完了までに時間がかかりすぎるため、完成するころには次世代の担い手がいてくれるのか不安だ。

ほかに、中山間地域での基盤整備事業が必要だと思うが、国の補助事業よりも小さい規模の補助を受けようとする受益者の負担割合が大きくなり、農業者はあきらめムードを感じている。

これをやればいいという解決策は持ち合わせてはいないが、なんとかマイナスなムードを払拭するため、市の職員の皆さんと一緒に農業委員としても頑張っていきたい。

中山間のような小さな用・排水路の整備には多面的機能支払い制度や、中山間のお金を使えばどうかと言われることもあるが、地域全体にいきわたるまでには時間がかかるし、多面的機能支払制度も交付率が下がっている。



■市長

諦めムードの要因のひとつに基盤整備に手間や時間がかかることがあると思うので、市として制度改正や運用の見直しについて声を出していきたい。



■農林部長

小規模の基盤整備を含めた農地の維持については、今ある農地をすべて管理するのは現実的に無理があると考えている。その中で、残すべき農地の仕分けを農業委員の皆さんと我々農林部で考えていかなければならない課題だと認識している。

持続可能な世界を実感！

カードゲーム「Get The Point」を通して楽しくSDGsについて学びましょう！



講師

村井 淳氏

(株)ムライロ COMPANY 代表取締役
Get The Point 認定ファシリテーター

普段の生活の中のSDGsを知り、農業がどの分野に関わっているかを一緒に考えてみませんか？



- 日 時/令和5年1月18日(水)
13時30分～15時30分
- 会 場/一関市総合体育館(ユードーム)会議室3
- 対 象 者/農業に従事している方、または興味のある方
- 定 員/先着20人(高校生以上)
- 申込締切/1月10日(火)
- 申 込 先/一関市農業委員会事務局
Tel.0191-21-8692

カードゲーム「Get The Point」について詳しく知りたい方は、<https://www.sdsgstp.com> をご確認ください



農業者年金で明るい将来計画!

農業者年金で 老後も安心

〔千厩地域〕 佐藤 大輔さん



農業者年金は農業者の方なら広く加入できる年金です。詳しくは一関市農業委員会事務局へお問い合わせください。
電話 21-8692

佐藤大輔さん(46)は2021年に会社勤めを辞め、千厩町の実家へ戻り就農しました。現在はミニトマトのハウス栽培を3.6アール経営しており、近年の資材価格高騰の影響を受ける中、この2年間でなんとか経営を軌道に乗せることが出来たかなと振り返ります。

農業者年金には、シイタケ栽培を行っている父繁さんの勧めもあり加入したそうです。会社員だった頃に掛けていた別の年金と重複して加入することができます。農業者年金に加入する際の手続きが、やや大変だったそうですが、掛けた分のお金が減ることなく、将来確実に受け取れる点、税金の優遇措置が受けられる点をメリットとして感じられたそうです。

今後はシイタケ栽培も自分の経営に取り入れ、ミニトマトとシイタケ栽培をどれだけ手間をかけずに両立させていけるかを模索していきたいと、力強く、前向きに考えられています。大輔さんの今後の更なる活躍が楽しみです。

農地利用最適化推進委員 遠藤 真一

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。令和3年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10アール当たり)は、以下のとおりとなっております。

農地賃借料情報

① 田(水稲)の部 (10a当たり)	平均額	最高額	最低額	データ数
	一関・花泉地域	6,412円	11,440円	2,102円
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	5,895円	10,000円	2,118円	216

② 畑の部 (10a当たり)	平均額	最高額	最低額	データ数
	一関・花泉地域	3,894円	9,667円	2,000円
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,829円	5,220円	1,321円	65

●今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。
●実際の農地の賃借には、賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。
●実際の農地の賃借借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、および隣接する道水路などの状況を考慮して、両方で協議の上決定してください。

全国農業 新聞

購読料

月額 700円

全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。
●お申込みは、農業委員会または各支所産業建設課まで

農業者年金に加入して豊かな老後に備えませんか。

- 年間60日以上農業に従事している国民年金第1号被保険者であれば誰でも加入できます。
- 税制面で優遇措置があるほか、積立方式確定拠出型の終身年金なので少子化の時代でも安心して掛けることができます。
- 保険料は2万円からですが、条件を満たしていれば最大1万円の補助もあります。
- 制度について詳しく知りたい方は、農業委員会事務局までお気軽にお問い合わせください。

編集後記

新年一月に発行されるいわいの大地。少しでも希望の持てる紙面にと編集委員は知恵を絞ります。

既に「諦めムードが漂い始めている」、先日開かれた市長との懇談会で出た出席委員の発言でした。耕作放棄地の増加や鳥獣被害、少子高齢化、担い手不足、加えてコロナ禍により習わし事や行事は中止が簡素化され、住民同士の関わりも希薄になりました。嫌でも集落の活気は奪われていきます。

こうした現状に、国は「デジタル田園都市構想」を掲げ課題解決を目指しています。デジタルの力を使い東京一極集中を是正し、住みやすい田舎を作ると言うものらしいですが、正直私は大いに期待しています。本市は東京から新幹線で2時間、リモートが進んだいま、なにも東京に居なきや出来ないという仕事ばかりではありません。都会の喧騒やストレスのなかで、心満たされない人は少なくないでしょう。

誇れるもの、自慢できる事は沢山あります。インターネットやSNSを使えば簡単に情報発信することも可能です。団塊の世代からZ世代に至るまで、デジタルをキーワードに変革をもたらす希望の一年になることを祈念して止みません。

農業委員 佐藤 想司

「いわいの大地」編集委員
編集委員長 佐藤 和威治(藤沢)
副委員長 島山 潔(大東)
編集委員 松岡 千賀子(一関)
佐藤 多賀幸(花泉)
遠藤 真一(千厩)
佐藤 想司(東山)
藤原 美喜男(室根)
小野寺 修(川崎)

